

Title	商社参加型合併における緊張モデルの再構成 - 商社参加型合併の展望 -
Sub Title	
Author	久保裕滋(Kubo, Yuuji) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0079">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0079</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 久保裕滋

主査 小林規威 教授

副査 小野桂之介 助教授

所属ゼミナール 小林規威 研

奥村昭博 助教授

## 「商社参加型合併における緊張モデルの再構成」

### — 商社参加型合併の展望 —

今日まで、日本製造企業の国際化と多国籍化は、商社を先導役にして、商社に依存するかたちで進行してきたといえる。この日本独得の海外進出のパターンとして、商社を合併パートナーとする商社参加型合併が存在する。

本稿は、「この商社参加型合併が今後も日本製造企業の海外進出の中核となるのか、それとも製造企業の商社離れが進行し、究極的に欧米多国籍企業のような製造企業単独の海外進出の方向に移行していくのか」という日本の製造企業の多国籍化の方向性を探ることを目的としている。筆者はこのテーゼの解明にあたり、海外製造子会社における製造企業と商社の緊張関係を明確にする為、吉原緊張モデルにおいて、次の3点について再構成を図った。(1) 商社参加度の低下を要請する経営資源補充の必要性和経営支配力確保の必要性という2つの説明変数の相互関係を明確化した。(2) 2つの説明変数に変化を与える3つの基本的因子を緊張モデルに追加した。(3) 緊張関係の概念モデルを開発した。以上の修正を加えた緊張モデルを使用して、電機・繊維両業界の緊張関係の実態を分析した結果、電機業界では既に商社離れが生じており、繊維業界でも商社を除々に排除している傾向がみられた。よって、筆者は今後の日本製造企業の多国籍化の方向としては、商社離れ現象が進み、究極的に欧米多国籍企業のような製造企業単独の海外進出に移行していくという結論を得ることができた。